



片瀬山5丁目富士見坂

特集「大災害で生き残るために」
発災後直ちに公共機関の救援は？
広域的な大災害が発生した場合、発災直後から家屋の損傷、火災、土砂崩れなどが同時に多数発生し、被害は甚大になります。すべての被災地域に、消防・警察・自衛隊・行政などの公共機関の支援が十分に行き渡らせることは極めて難しいのが現実です。

自助・共助・公助 (2020.08.25 「広報ふじさわ」 より)

- 自助:** 防災グッズ・備蓄食料などの購入、家具の転倒防止対策や感震ブレーカーを設置するなど、自分自身で身の安全を守り、日頃から災害に備えること
- 共助:** 地域やコミュニティで協力し助け合い、自主防災組織を結成するなど、地域を自分たちで守ること
- 公助:** 個人や地域では解決できないことを自治体、消防など公的機関が行うこと

自助・共助は 発災直後の皆さんの命を守る重要なことです

25年前の阪神・淡路大震災では自助や共助によって助けられた人々の割合は、90%を超え、公的な救助隊などに助けられた人々の割合は2%程度でした。

それでは、共助のうち**発災直後の安否確認**について考えてみましょう
安否確認とは？

近隣の住民の安否を確認することです。もちろん自分自身、家族は勿論！



- ・発災後、自分の家族や家の状況を確認したら、近隣の住民の安否確認にうつります
- ・安否がわからない家(無事だったという表示がない家)を速やかに判別して、**救助や援助が必要な家・人を見つけ出すことが安否確認です**

- ・そのためには、近隣にどのような人たちが住んでいるか
おおよその状況を把握してはなりません
詳細な情報でなくともかまいません
お年寄りはいないか？ 歩くことに不自由はないか？
何人家族？ (昼間は何人?) などでもよいでしょう
- ・**安否確認は自治会役員や近隣ネットメンバーだけでなく
地域住民が発災後に自主的におこなう行動です**



安否確認の方法(震度5強以上の地震発生時で開始)

例としての各自治会共通の説明です

1. 無事な家は

玄関ドアや門扉に各自治会が決めた無事の表示をします

タオルや布を結び付けて「私たちは無事です

他に救助が必要な家に行ってください」の意味です

(自治会によりタオルなどの色を決めている場合があります)



2. 近隣の家の状況を見回ります

自治会班長や近隣ネットメンバーだけでなく、無事だった住民の方も参加して、近隣の家の見回りをします

2人以上で見回るのが良いでしょう

3. タオルの出していない家(空き家は除く)は

扉をノックし、大きな声で「〇〇さん、いらっしゃいますか?大丈夫ですか?」など呼びかけます。(高齢の方には耳の遠い方、歩行が困難な方もいます) 家の中の人は無事か、ケガをしていないか……

インターホンは停電などの場合は使用できなくなりますので、呼びかける必要があります

3. 安否確認結果の報告と救助・援助が必要な人への取り組み

自治会の災害拠点(1・2丁目北公園、3丁目東公園、4丁目西公園、5丁目南公園)の自治会役員へ報告、救助・援助活動をおこないます

もちろん、110番、119番が使用できる場合は通報も

無事の表示方法、近隣ネットなどは各自治会により異なる部分があります



助けてくれて
ありがとう



4. 安否確認ができる関係づくりを進めよう

私たちの地域には、高齢者、乳幼児・妊産婦や持病のある人など、何らかの助けが必要な方、いわば災害時要援護者がいます。災害等いざという時のために近隣の人たちが助け合う仕組み作りが必要です。片瀬山ではこの仕組みを近隣

ネットとよび、自治会ごとに活動しています。自治会により活動に違いがあります

普段から顔の見える関係づくりを進めましょう。地域の皆さんの安全な生活のために

近隣ネット、安否確認の方法は自治会により異なる部分があります。自治会内で確認をお願いします。安否確認は風水害などの災害の際にも必要なことです。



発行：片瀬山防災会
発行責任者：会長 朝日眞道
編集責任者：若月哲夫